

青梅市文化財ニュース

第 1 1 1 号

平成 9 年 1 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

正月の寺の行事

平成9年の新春も無事に明け、早いもので蔵開き、小正月を迎える頃となりました。そこで、お寺の正月の行事を覗いてみたいと思います。

臨済宗の寺院の場合を幕末に書かれたと思われる「毎歳行事記録」から見ると、元旦は「鶏鳴洗面」とあります。この鶏鳴とは1番どりの鳴くときで丑の刻、今の午前2時と云いますが、この明け方の意味かと思えます。続いて「諸堂献燈茶湯、了而本威儀客殿禮之間ニ於テ茶禮、菓者蜜柑昆布柿」となります。これは本堂や地藏堂、弁天堂等の諸堂に明かりを灯し、お茶を上げおわったら、正装の衣を着て客殿の礼之間でお茶を飲む儀式を行った事の様です。今でも臨済宗では、本堂の上間の間や書院で達磨大師の祖像を掛け、その前に餅や香炉、花瓶、蠟燭立てを置き、その前で全員で礼拝しお茶を飲む、賀扇納という事します。今でも同様ですが、その時もミカンと酢コンブと干柿を菓子として振る舞ったようです。「了而大鐘十八聲支度法鼓出頭祝聖」茶礼が終わると、一度下がって、係りの者が本堂の準備をし、その知らせとして鐘楼の鐘を18回鳴らし、続いて太鼓を作法に従って叩き、本堂に僧侶が集合します。そこで天下泰平を祈るお経を唱えます。「了而屠蘇、了而祝餅、了而大鐘十八聲支度法鼓出頭大般若轉讀」朝のお勤めが終わると正月らしく、お屠蘇を飲み雑煮お食べ一休みします。その後、再びお経の知らせの鐘を18回打ち、太鼓の音に合わせて本堂に出頭します。今度読むお経は、大般若波羅蜜多經という全部で600巻あるお経で、転読という読み方をします。これは般若經の中にある呪文を唱えながら、経本をパラパラと繰るやりかたで、最初と最後に大きな声でお経の題とその功德を唱えます。このお経は新年を祝い、天下泰平、五穀豊饒、仏法興隆等を願うもので、その願いを祈祷した般若札は1月4日から各寺院の檀信徒へ配布されるものです。続いて「主席禮之間ニ於テ禮受、子供式人位茶汲冬年ヨリ頼置事」その寺の筆頭和尚が、客殿もしくは本堂などの上座の間に於て、寺の檀家の年始の挨拶を受けます。その時、近所の子供を2人位お茶汲みの手伝いとして12月のうちに頼んで置くこと。「半齋惣献鉢」昼は諸堂へ仏飯を供え、「晚課如常、夕来諸堂献燈三日共同様也」晩のお勤めはいつもの通りに行い、日が落ちたら諸堂に火を灯す、これは三ヶ日共同じく行うこととなっています。

今では、どの寺も僧の人数が少ないので、この様にはいきませんが、大体は同様に行われているようです。

(文責 棚橋)

＊ 青梅市郷土博物館の催し

青梅市内の菓子商で使われていた青梅煎餅や打菓子の型などを中心に、和菓子作りの道具やその製法について紹介しました企画展『青梅の菓子屋－お菓子作りの道具－』を2月16日（日）まで開催しております。ぜひ、御覧ください。

＊ 新刊図書のご案内

青梅市史史料集第46号『西多摩郡人物誌 法鑑 身ノ上一代記 市川家日記』

頒価1,200円で郷土博物館、教育センター社会教育課にて販売しております。